

# 第 11 回波崎ボーイズ杯学童軟式野球大会

## 開催要項

### 1.目的

- ・大会を通じて地元地域の活性化を図る。
- ・試合の中で挨拶や礼儀を実践させ、小学生の健全育成に努める。
- ・多くの関係者の協力のもとで大会を開催できる事に素直に感謝できる小学生を育てる。

### 2.大会要項

◆日程◆令和 5 年 12 月 10 日、16 日、17 日 予備日 23 日

◆会場◆波崎ボーイズグラウンド他

◆参加チーム◆令和 5 年度各市区町村のスポーツ少年団、又は全日本軟式野球連盟登録チームで、令和 5 年 12 月現在小学 1～6 年生で構成されるチーム。

各チームのメンバーは選手 11 名以上 20 名以内、代表者 1 名、監督、コーチ 2 名、スコアラー 1 名計 25 名以内とする。

\*チームの在籍選手が規定人数に満たない場合、混合チームを認めます。

◆試合方式◆トーナメント方式

◆抽選会◆代理抽選 ※他大会の進捗を踏まえ組合せ抽選を行う。

◆開会式◆昨年度同様、閉会式のみとする。

◇態度決定 6 : 00

◆大会参加費◆大会初日、各グラウンド担当者へ¥10,000-を御納め下さい。

◆閉会式◆決勝戦終了後開始予定 ◇会場 波崎ボーイズ球場

◆チーム編成◆1 チームの選手は 11 名以上 20 名以内、監督 1 名、コーチ 2 名、スコアラー 1 名、代表者 1 名の 25 名以内とする。

◆審判員◆第 11 回波崎ボーイズ杯学童軟式野球大会帯同審判表（別紙参照）に準ずる。

◆規則◆2023 年度公認野球規則および特に定める特別規則（全日本少年野球に関する事項）を適用する。

◆主催◆公益財団法人日本少年野球連盟茨城県支部波崎ボーイズ

## 閉会式 式次第

- ①役員、審判員、チーム代表、監督整列
- ②成績発表
- ③表彰・優勝、準優勝、個人賞
- ④主催者挨拶
- ⑤閉会宣言
- ⑥選手、役員、審判員、チーム代表、監督退場

## 実施要領

### 競技方法

(1)試合は 1 試合 6 イニングスとする。また、1 時間 30 分に達した時点で新しいイニングに入らずに、その時点の回終了時の得点をもって勝敗を決する。なお、6 回終了あるいは規定時間経過後、同点の場合には直ちに特別ルールを適用する。

《特別ルール》

一死満塁 前イニング終了時の次の打者から攻撃を開始する。この場合の走者は、前文による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。勝敗が決しない場合はさらに継続打順でこれを繰り返す。

(2)シートノックは5分間とする。ただし、状況により行わないこともある。

(3)ベンチは若番が1塁側とする。

(4)先攻・後攻は主将がジャンケンで決する。

(5)メンバー表の提出は、第1試合は開始30分前に、以後は前試合の4回終了時にチームの監督及び主将が4部を本部に提出する。

(6)コールドゲームは、暗黒降雨の場合は4回終了後に適用する。

得点差による場合は3回以降13点差4回以降10点差5回以降7点差とする。

(7)投手一人の球数制限は1日70球(※4年生以下は60球)以内とし、連続する2日間で105球とする。3連投(連続する3日間)は禁止する。

試合中に70球(※60球)に到達した場合は、対する打者が打撃を完了するまで投球を認める。

ボークは投球数としない。

※牽制球や送球とみなすものは投球数としない。

雨天などのノーゲームになった試合は投球数にカウントする。

ダブルヘッダーの場合で2試合に登板した時は連続2日間投球した事とし翌日は登板できない。(ダブルヘッダー登板は可)また、1試合のみ投球した場合は1日の投球とする。

投手から捕手の制限は設けない。

(8)監督またはコーチによる指示、伝達のためのタイムの取得は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。特別ルール適用時は、7回終了後に攻撃1回と守備1回の指示、伝達を認める。守備時に3以上集まれば同様のタイム所得1回とみなす。

(9)投手の変化球は禁止する。

(10)金属スパイクは禁止する。

(11)マスク及び金属バットはJSBBのものを使用する。

(12)打者、走者、ベースコーチは、危険防止のためヘルメットを必ず着用すること。

(13)シートノック時の捕手及びボール渡しの選手、投球練習時の捕手及び代捕手は、必ずヘルメットを着用すること。

(14)捕手は、プロテクター、レガース、ヘルメット、マスク(スロートガード付)を必ず着用すること。また、フェールカップの着用を推奨とする。

(15)ベンチに入ることのできる人数は、代表者1名、監督1名、コーチ2名、スコアラー1名、選手20名以内とする。

(16)プレーヤーが負傷等で長引く場合は、臨時代走(コーティシーランナー)を認める。臨時代走は打前位のものとする。

(17)抗議権がある者は、監督及び当該プレーヤーのみとする。

(18)帯同審判員は、各チーム2名とする。(服装は問いませんが、動きやすいもので)

審判配置は、別紙による。

(19)新型コロナウイルス感染防止の観点から、投手用のロジンバックは各チーム持参とする。